

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	千田 賢作
論文担当者	主査 平田 淳一
	副査 都築 建三
	副査 中込 隆之
学位論文名	Contrast-enhanced 3T vessel wall imaging for symptomatic intracranial atherosclerotic stenosis: value of pituitary stalk reference (症候性頭蓋内動脈硬化性狭窄に対する造影3テスラ血管壁イメージング：下垂体茎を参照指標として用いることの有用性)
論文審査の結果の要旨	
<p>本論文は、造影3テスラMRIを用いた血管壁イメージングにおいて、症候性頭蓋内動脈硬化性狭窄（intracranial atherosclerotic stenosis：ICAS）を定量的に評価するための最適な参照組織を検討した研究である。とくに、下垂体茎を参照指標として用いることの有用性を明らかにし、症候性病変と無症候性病変の鑑別能向上を目的としている。</p> <p>著者は、2016年から2024年に施行された造影血管壁MRI症例を後ろ向きに解析し、45例56病変を対象として、複数の参照組織を用いた血管壁信号強度比の比較検討を行った。その結果、血管壁信号強度比は、非造影および造影画像のいずれにおいても症候性病変で有意に高値を示し、なかでも下垂体茎を参照とした造影血管壁イメージングが最も高い鑑別能と良好な再現性を示すことを明らかにした。</p> <p>本研究の特筆すべき点は、これまで十分に検討されてこなかった参照組織の選択という観点から血管壁イメージングを再評価し、下垂体茎という新たな参照指標の有用性を定量的に示した点にある。本手法は、従来の形態的狭窄度や血管壁厚評価では捉えきれなかった病変の活動性を反映する可能性があり、症候性ICASの診断およびリスク評価に新たな視点を提供するものである。</p> <p>以上のように、本論文は新規性および独創性を有し、研究方法および結果の解析も適切であり、臨床的意義の高い知見を示している。よって、本論文は医学博士の学位論文として十分な価値を有するものと認められる。</p>	